

船舶事故調査報告書

令和5年11月15日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（棧橋）
発生日時	令和4年9月25日 15時11分ごろ
発生場所	愛知県名古屋港第1区 名古屋港金城信号所から真方位022° 1.73海里付近 （概位 北緯35° 03.7′ 東経136° 51.5′）
事故の概要	セメント運搬船第三すみせ丸は、着棧作業中、棧橋に衝突した。
事故調査の経過	令和4年11月2日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	セメント運搬船 第三すみせ丸、4,443トン 144335、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、まるいち汽船株式会社
乗組員等に関する情報	船長、三級（航海）
負傷者	なし
損傷	本船 船首部外板に凹損 棧橋 ドルフィン棧橋のコンクリートに欠損、移動橋の脱落等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮高 約1.6m、潮汐 上げ潮の中央期、 潮流 北北東流約0.2ノット
事故の経過	<p>本船は、船長ほか11人が乗り組み、名古屋港第1区空見ふ頭の南北に延びるドルフィン棧橋（以下「本件棧橋」という。）に入船左舷着けする予定で、名古屋港北航路を北北東進した。</p> <p>本船は、令和4年9月に登録検査を受けた新造船で、ジョイスティックにより主機及び舵の操作を行うベクツインラダーシステム^{*1}を採用しており、独立して操作する船首スラストを備えていた。</p> <p>船長は、練習も含めてジョイスティックによる操船経験が数回であり、ジョイスティックによる操船での全速力後進を経験しておらず、ジョイスティックによる操船には慣れていなかった。</p> <p>船長は、‘本船と同型のベクツインラダーシステムを備えていない一般的な操船方法のセメント運搬船’（以下「一般的なセメント船」という。）で本件棧橋に離着棧した経験は多数あったが、本船では初めてであった。</p> <p>船長は、一般的なセメント船のときと同様に、本件棧橋と約30°の交角で減速しながら本件棧橋に接近し、本件棧橋との距離が約70</p>

*1 「ベクツインラダーシステム」とは、1つのプロペラの後ろに2つのシリング舵を左右対称に配置し、2つの舵でプロペラの前進回転により発生したプロペラ後流を制御し、全方向に推力を発生させるシステムのことで、一般的に、後進する際の推力が、前進する際の推力に比べ、約25%減衰すると言われている。

	<p>mとなった頃に右舷錨を投げ、錨鎖を約2節伸ばしながら行きあしを止め、船首スラストを左回頭として使用し、船首を本件棧橋に寄せて係留索をとって着棧する予定であった。</p> <p>船長は、本件棧橋に近づき、ジョイスティックによる操船に切り替えたのち、一般的なセメント船のときと同様な後進推力が得られると思い、ジョイスティックを後進としたものの、思うように減速できずに慌ててしまい、右舷錨を投じる時機を逸し、船首が左方に急に振れ始めたので船首スラストを右回頭一杯として使用したが間に合わず、本船の船首部が本件棧橋に衝突した。</p>
<p>分析</p>	<p>本船は、着棧作業中、船長が、ジョイスティックによる操船に慣れていない状況下、ジョイスティックによる操船でも一般的なセメント船のときと同様な後進推力が得られると思い、ジョイスティックを後進としたものの、思うように減速できずに右舷錨を投じる時機を逸したことから、船首が左方に急に振れ始めた際に止めることができず、船首部が本件棧橋に衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、練習も含めてジョイスティックによる操船経験が数回であり、ジョイスティックによる操船での全速力後進を経験しておらず、ジョイスティックによる操船には慣れていなかったことから、ジョイスティックによる操船でも一般的なセメント船のときと同様な後進推力が得られると思ったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が着棧作業中、船長が、ジョイスティックによる操船に慣れていない状況下、ジョイスティックによる操船でも一般的なセメント船のときと同様な後進推力が得られると思い、ジョイスティックを後進としたものの、思うように減速できずに右舷錨を投じる時機を逸したため、船首が左方に急に振れ始めた際に止めることができず、船首部が本件棧橋に衝突したものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、特殊な操船を必要とする船舶に乗り組む場合には、取扱説明書等によりその仕組みを理解し、操作に慣れるまで十分に訓練すること。